



TITLE:

認知学習分野(II.研究所の概要)

AUTHOR(S):

正高, 信男; 泉, 明宏

CITATION:

正高, 信男 ...[et al]. 認知学習分野(II.研究所の概要). 霊長類研究所年報
2004, 34: 52-54

ISSUE DATE:

2004-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166059>

RIGHT:

- 5) 松沢哲郎(2004)現代のことば. 京都新聞 (2月5日).
6) 松沢哲郎(2003)文化はいかに伝えられるか. 聖教新聞 (7月10日).

○認知学習分野

正高信男・泉明宏

<研究概要>

A-1) 言語習得の身体的基盤の認知神経科学的研究

正高信男

手話の習得や視聴覚情報と自己受容感覚との統合過程など、高次認知機能の身体的基盤が言語習得に果たす役割を、乳幼児を中心として、心理実験および神経活動の非侵襲的手法をもちいて研究した。学習の過程を縦断的に追跡することで、情報処理の発達が脳・身体の可塑性と、どう関わるかの解明をめざしている。

A-2) 学習困難を持つ子どもの心理課題遂行時の脳内機序の解明および支援プログラムの評価

正高信男

学習困難をもつ子どもの認知機能と脳機能の関連性の分析を行い、学習困難に関する類型化を行った。

B) チンパンジーにおける視聴覚統合

泉明宏

チンパンジーにおける視聴覚統合処理について研究している。主として視聴覚の同期性、量の表象について検討した。

C) ニホンザルにおける他個体の映像に対する興味

泉明宏・土田順子（自治医大）

加齢にともなう他個体との交渉の減少について検討する目的で、老齢・若齢ニホンザルを対象に、コンピュータディスプレイに映し出された他個体の映像に対する”興味”について検討した。

D) 行動実験制御装置およびプログラムの開発

南雲純治

1. 心的回転認知実験および空間回転認知実験用ソフトの作成. 2. 光点による生物学的運動（バイオリジカルモーション）の動画ファイル生成および編集ソフトの作成. 3. 仮想専用線導入による遠隔地とのLAN型ネットワークシステムの構築（代表者） 4. USB インタフェースキットを利用した安価汎用入出力ボードの試作

<研究業績>

◇原著論文

- 1) Ceugniet, M., Izumi, A. (2004) Individual vocal differences of the coo call in Japanese monkeys (*Macaca fuscata*). *Comptes Rendus Biologies* 327(2): 149-157

- 2) Kojima, S., Izumi, A., Ceugniet, M. (2003) Identification of vocalizers by pant hoots, pant grunts and screams in a chimpanzee. *Primates* 44(3): 225-230.
- 3) 梶川祥世, 正高信男 (2003) 乳児における朗読音声に含まれた語彙パターンの認知 心理学研究 74: 244-252.

◇総説

- 1) Masataka, N. (2003) From index-finger extension to index-finger pointing: ontogenesis of pointing in preverbal infants. In S. Kita(ed.), *Pointing: Where Language, Culture, and Cognition Meet* : 69-84.
- 2) Masataka, N. (2003) To what extent is the language competence module-specific? *Proceedings of the society of Cognitive Linguistics* 3: 296-311.
- 3) 正高信男 (2003) 言語習得の脳内基盤. *神経研究の進歩* 47: 677-683.

◇著書 (単著)

- 1) Masataka, N. (2003) *The Onset of Language*. pp.281, Cambridge University Press, Cambridge.
- 2) 正高信男 (2003) ケータイを持ったサル. pp.187, 中央公論新社, 東京.

◇学会発表等

- 1) Masataka, N. (2003) What cognitive neuroscience research reveals about evolution of language? Keynote speech at the 4th International Conference of Cognitive Science (Jul. 2003, Sydney, Australia).
- 2) Masataka, N. (2003) Vocal-motor coordination in infancy and ontogeny and phylogeny of language. Invited talk at the 15th International Conference of Phonetic Science (Aug. 2003, Barcelona, Spain).
- 3) Masataka, N. (2003) The role of Broca's area and mirror system for language learning. *International Symposium for the "Origins of Language" Reconsidered* (Dec. 2003, Kyoto, Japan).
- 4) Izumi, A. (2003) Perception of tone sequences in monkeys. *International Symposium for the "Origins of Language" Reconsidered* (Dec.2003, Kyoto, Japan)
- 5) 泉明宏 (2003) 霊長類の聴覚世界.第 48 回プリマーテス研究会「サルとヒトの感覚」(2003 年 12 月, 犬山).
- 6) 正高信男 (2003) ヒトはなぜ笑うのか. 第 11 回日本笑い学会特別講演 (2003 年 7 月, 名古屋).
- 7) 正高信男 (2003) ヒトはなぜ子育てに悩むのか. 第 13 回日本乳幼児教育学会 特別講演 (2003 年 11 月, 奈良).
- 8) 正高信男 (2004) ヒトはなぜ子育てに悩むのか. 第 6 回日本助産師会特別講演 (2004 年 3 月, 大津).
- 9) 土田順子, 泉明宏 (2003) ニホンザルにおける他個体への興味の加齢性変化. *日本動物心理学会第 63 回大会* (2003 年 10 月, 筑波) *動物心理学研究* 53(2): 109.

◇講演

- 1) 正高信男 (2003) 0 歳児絵本の効用. 平成 15 年度幼児読書週間記念講演 (2003 年 5 月, 岐阜).
- 2) 正高信男 (2003) 現代育児の問題点. 平成 15 年度岐阜県公立学校校長研修大会特別講演 (2003 年 6 月, 大垣).
- 3) 正高信男 (2003) 手話の習得と日本語教育. 第 6 回トータルコミュニケーション研究大会招待講演 (2003 年 7 月, 市川).

- 4) 正高信男 (2003) ヒトはなぜ子育てに悩むのか. 第 19 回全日本私立幼稚園連合会総会特別講演 (2003 年 8 月, 熊本).
- 5) 正高信男 (2003) 人間にとって障害とは何か. 平成 15 年度富山県公立学校教員研修大会特別講演 (2003 年 8 月, 富山).
- 6) 正高信男 (2003) ことばと認知. けいはんな公開シンポジウム 社会で育つ知能と心 (2003 年 11 月, 京都).
- 7) 正高信男 (2003) ヒトはなぜ子育てに悩むのか. 平成 15 年度大谷女子大学公開講演会 (2003 年 12 月, 京都).
- 8) 正高信男 (2004) 子育てと世代間交流について. 平成 15 年度世代間交流シンポジウム基調講演 (2004 年 2 月, 東京).
- 9) 正高信男 (2004) 学習困難の脳内機能の解明と教育支援プログラムの開発・評価. 第 6 回社会技術研究フォーラム (2004 年 3 月, 東京).

◇その他

- 1) 正高信男 (2003) アインシュタインと学習障害. サイエティスト 1: 15-29.
- 2) 正高信男 (2003) ケータイは人間をサル化する. 中日新聞 (10 月 15 日).
- 3) 正高信男 (2003) サル化する日本人. サンケイ新聞 (10 月 4 日).
- 4) 正高信男 (2003) 子守唄と育児. チャイルドヘルス 6(12): 12-15.
- 5) 正高信男 (2003) 新・赤ちゃん学 04. サンケイ新聞 (4 月 2 日).
- 6) 正高信男 (2003) 新・赤ちゃん学 05. サンケイ新聞 (4 月 9 日).
- 7) 正高信男 (2003) 新・赤ちゃん学 06. サンケイ新聞 (4 月 16 日).
- 8) 正高信男 (2003) 新・赤ちゃん学 07. サンケイ新聞 (4 月 23 日).
- 9) 正高信男 (2003) 新・赤ちゃん学 08. サンケイ新聞 (4 月 30 日).
- 10) 正高信男 (2003) 新・赤ちゃん学 09. サンケイ新聞 (5 月 7 日).
- 11) 正高信男 (2003) 新・赤ちゃん学 10. サンケイ新聞 (5 月 14 日).
- 12) 正高信男 (2003) 新聞時評. 毎日新聞 (9 月 30 日).
- 13) 正高信男 (2003) 新聞時評. 毎日新聞 (11 月 5 日).
- 14) 正高信男 (2003) 新聞時評. 毎日新聞 (12 月 2 日).
- 15) 正高信男 (2003) 新聞時評. 毎日新聞 (12 月 30 日).
- 16) 正高信男 (2003) 知的障害と「生きる力」. 文藝春秋 特別版: 146-147.
- 17) 正高信男 (2004) 「心の闇」という誤解. 健康 544: 28-29.
- 18) 正高信男 (2004) ヤモリのパニック. 朝日新聞 (3 月 22 日).
- 19) 正高信男 (2004) 原野回帰する都心. 朝日新聞 (3 月 23 日).
- 20) 正高信男 (2004) 高齢者の最大の役割は子育て. 読売新聞 (3 月 23 日).
- 21) 正高信男 (2004) 正岡子規の観察眼. 朝日新聞 (3 月 24 日).
- 22) 正高信男 (2004) 評判記. 読売新聞 (2 月 1 日).
- 23) 正高信男 (2004) 評判記. 読売新聞 (2 月 29 日).
- 24) 正高信男 (2004) 評判記. 読売新聞 (3 月 28 日).
- 25) 正高信男 (2004) 「一匹の人間」の行動学をめざして. 週刊読書人 1 月 19 日.